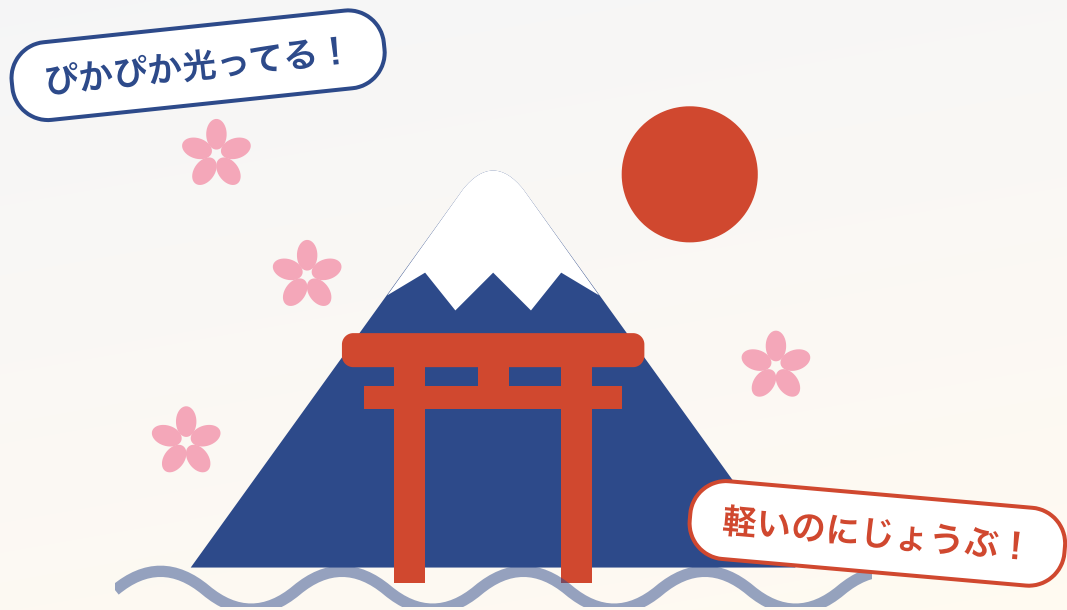




漆器

塗り重ねて生まれる、つやとぬくもり



この教材の使い方

1

見て・ふれて・感じる

写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2

「なぜ？」を考える

行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3

「やってみよう」で体験する

答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken (ケン)

日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

漆器の入り口	3～5
技法と産地	6～10
暮らしの中の漆器	11～15
もっと味わう	16～21
マナーとふくしゅう	22～24
ふり返り	25～30

漆器ってなに？

漆器がどんなものか知ろう。

漆器（しっき）とは、木などでつくった器に、**漆（うるし）**という天然の塗料を塗り重ねてつくられる道具のことです。

お椀やお盆、重箱など、暮らしの中で長く使われてきました。



こんなところに漆器

お椀

お盆

お重箱

お箸

茶道具

アクセサリー

軽くてしょうぶなことから、毎日の食卓から特別な行事まで、幅広く使われています。

ポイント

- 漆器は、木などの土台に漆を塗り重ねてつくられます。
- 塗り重ねることで、美しいつやと丈夫さが生まれます。
- 地域によって、塗り方や飾り方に特徴があります。

やってみよう

1. 家にある漆器や、漆のように見える器をさがしてみよう。

2. 漆器を見たことがある場所を書こう。

ワンポイント 光沢のある黒や赤の器を見たら、漆器かもしれません。よく観察してみましょう。

書いて覚えよう

漆ってなに？

漆器のもとになる、漆という塗料を知ろう。

漆

うるし／lacquer

ウルシの木からとれる天然の樹液を加工した塗料

漆器

しっき／lacquerware

漆を塗り重ねてつくられた器や道具

ポイント

- 漆は、ウルシの木の幹に傷をつけて出てくる樹液からつくられます。
- 塗って乾かすと、かたくて水や熱に強い膜になります。
- 天然の樹液のため、人によっては肌にふれるとかぶれることがあります。

やってみよう

1. 漆の色には、黒や赤の他にどんな色があるか調べてみよう。

ワンポイント 生の漆は肌がかぶれることがあるため、実物にじかにふれるときは大人といっしょに、注意して行いましょう。

書いて覚えよう

漆の歴史

漆が使われてきた長い歴史を知ろう。



縄文時代

じょうもん時代

漆をぬった道具が使われていたと考えられています。

はじまり



奈良～平安時代

なら～へいあん時代

仏具や調度品に漆器が使われましました。

広がり



江戸時代

えど時代

蒔絵などの技術が発展し、各地に産地が生まれました。

発展

ポイント

- 日本各地の遺跡から、漆をぬった古い道具が見つかっています。
- 長い年月をかけて、地域ごとの技術や特徴が育まれてきました。

やってみよう

1. 自分の住む地域に、漆器の歴史や産地がないか調べてみよう。

書いて覚えよう

漆器のつくり方・下地と塗り

漆器がどのようにつくられるか知ろう。

漆器のつくり方

木を器の形にけずり、その上に漆を何度もぬり重ねてつくります。
布を貼って補強することもあります。

下地と塗り

土台を強くする「下地」をつくってから、仕上げの「塗り」を行います。
一度ぬっては乾かし、みがく作業を何度もくり返します。
仕上がるまでに、数週間から数か月かかることもあります。

ポイント

- 工程を重ねるほど、丈夫で美しい漆器になります。
- 乾かす工程は、温度と湿度を保った場所で行われます。

やってみよう

1. 漆器づくりに、どれくらいの工程があると思いますか。予想して書こう。

書いて覚えよう

蒔絵・螺鈿

漆の表面をいろどる、2つの美しい技法を知ろう。

蒔絵（まきえ）

漆で絵をえがく

模様の部分に漆をぬる

金や銀の粉をまく

乾く前に金粉・銀粉をまく

螺鈿（らでん）

貝がらをうめこむ

貝の内側の光る部分を使う

虹色に光る

見る角度で色が変わる

ポイント

- 蒔絵は、金や銀のかがやきで模様を表す技法です。
- 螺鈿は、夜光貝や白蝶貝などの貝がらを薄く切って使います。

やってみよう

1. 蒔絵と螺鈿、写真を見てどちらが好きか、理由も書こう。

ワンポイント 蒔絵と螺鈿を組み合わせ、1つの器に両方使うこともあります。

書いて覚えよう

沈金

彫って金をうめる技法、沈金を知ろう。

沈金

ちんきん / chinkin

漆の表面に模様をほり、金をうめこむ技法

ポイント

- 細い彫刻刀で、漆の表面に細い線の模様をほります。
- ほった溝に金粉や金箔をすりこんで、模様を浮かび上がらせます。
- 繊細な線で、絵や文様をえがくことができます。

やってみよう

1. 沈金の写真を見て、どんな模様がえがかれているか書こう。

ワンポイント 蒔絵・螺鈿・沈金は、どれも漆器を美しくかざる代表的な加飾技法です。

書いて覚えよう

輪島塗

石川県が誇る、丈夫な漆器を知ろう。

輪島塗（石川県）

下地に「地の粉」という粉を混ぜて、とても丈夫な漆器に仕上げます。
蒔絵や沈金など、はなやかな加飾がほどこされることも多くあります。
工程の多さと丈夫さから、高く評価されている産地の一つです。

ポイント

- 輪島塗は、長く使うほど味わいが増すといわれています。
- 修理をしながら、何十年も使い続けられることもあります。

やってみよう

1. 輪島塗の写真を見て、気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

日本各地の漆器の産地を知ろう。

産地	都道府県	特徴
輪島塗	石川県	丈夫な下地とはなやかな加飾
会津塗	福島県	種類が多く日用品も豊富
津軽塗	青森県	研ぎ出しによる独特の模様
山中塗	石川県	木地の美しさが評判

ポイント

- 漆器の産地は、東北から九州まで日本各地に広がっています。
- それぞれの産地で、木地づくりから加飾まで、地域ならではの技術が育っています。

やってみよう

1. 地図で、上の表の産地の場所をさがしてみよう。

書いて覚えよう

漆器の使い方・手入れ

漆器の使い方と、長持ちさせる手入れを知ろう。

ポイント

- お椀やお盆、重箱など、場面に合わせてさまざまな漆器が使われます。
- 洗うときは、やわらかいスポンジで、やさしく洗いましょう。
- 強い日光や急な温度変化をさけて、風通しのよい場所で保管しましょう。

手入れのポイント

食器洗い機や電子レンジは、漆器には向かないことが多いです。使う前に、取りあつかい方を確認しましょう。

やってみよう

1. 家に漆器があれば、どのように手入れされているか聞いてみよう。

書いて覚えよう

- 漆器は軽くて丈夫なので、長く使い続けることができます。
- 漆の膜には、料理の温かさを保ちやすいという性質があります。
- 欠けても直しながら使える修理方法もあります。

1. 木の器・陶磁器・漆器を比べて、それぞれの良さを1つずつ書こう。

書いて覚えよう

漆を育てる人と、行事で使われる漆器を知ろう。

漆の木から樹液をとる「漆かき」は、木を育てながら少しずつ樹液をとる、時間のかかる仕事です。
漆器をつくる職人は、木地づくり・下地・塗り・加飾など、工程ごとに分かれています。

お正月の重箱や、お祝いの席で使うお椀など、特別な行事で漆器が使われることがあります。

お正月

結婚式

茶道

お盆行事

- 1本の木からとれる漆の量は少なく、とても貴重な材料とされています。

1. 家の行事で使われている漆器や、それに似た器がないかさがしてみよう。

書いて覚えよう

現代の漆器・漆器を見に行こう

今の暮らしの中の漆器と、見に行ける場所を知ろう。

現代の漆器

アクセサリー

ピアスやブローチなど

文房具

ペンやノートの表紙など

見に行ける場所

美術館・資料館

産地の歴史や作品を紹介

漆器店

実際に手にとって選べる

ポイント

- 伝統の技術を生かしながら、現代の暮らしに合う新しい漆器もつくられています。
- 産地では、工房見学や漆器まつりが開かれることがあります。

やってみよう

1. 現代的な漆器のデザインを1つ調べて、どこが気に入ったか書こう。

書いて覚えよう

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There are no margins or other markings on the paper.

写真や実物を見てみよう

本物の漆器を、目と手で確かめよう。

見るときのポイント

色、つや、模様、持ったときの軽さなど、いろいろな角度から観察してみましょう。

色

つや

模樣

軽さ

手ざわり

ポイント

- 美術館や資料館では、貴重な漆器を間近で見ることができます。
- 写真だけでは分からない光の反射やつやを、実物で確かめられます。

やってみよう

1. 近くの美術館や資料館に、漆器の展示があるか調べてみよう。
2. 写真を1枚見て、気づいたことを3つ書こう。

書いて覚えよう

体験してみよう

身近な材料で、漆器づくり気分を体験しよう。

紙皿で蒔絵気分の模様をつくろう

- ① 紙皿に、えんぴつで好きな模様の下がきをする。
- ② のりで模様をなぞり、金や銀の紙のかけらをはる。
- ③ 乾かしてから、余分な紙をはらう。

ポイント

- 本物の蒔絵は漆と金粉を使いますが、身近な材料でも模様の美しさを体験できます。
- 仕上がった作品は、光にかざして見ると、輝き方のちがいが楽しめます。

ワンポイント のりやはさみを使うときは、手や周りをよごさないように気をつけましょう。

書いて覚えよう

由来と意味をおさらい

漆器のことばの意味を、もう一度確かめよう。

加飾の言葉

蒔絵

金銀の粉で模様をえがく

螺鈿

貝がらをうめこむ

産地・技法の言葉

輪島塗

丈夫な下地が特徴

下地

土台をつくる工程

ポイント

- 言葉の意味を知っていると、器を見るとき楽しみが増えます。

やってみよう

- この教材で覚えた言葉を、家族に1つ説明してみよう。

書いて覚えよう

19

昔と今をくらべよう

時代とともに変わったこと、変わらないことを考えよう。

昔

すべて手作業

木地から手作業の道具で仕上げる

時間も手間もかかる

天然の漆だけを使う

乾燥にも時間がかかる

今

新しい工夫も

機械も使って木地をつくることもある

効率よく形をつくれる

合成の塗料を使うこともある

価格をおさえられる

ポイント

- 伝統的な天然の漆を使う技術は、今も大切に受けつがれています。
- 新しい道具や材料を取り入れながらも、基本の工程は昔と変わりません。

やってみよう

1. 昔と今で、いちばん大きく変わったと思うところはどこですか。

書いて覚えよう

よくある疑問

漆器について、よくある疑問に答えよう。

疑問	こたえ
電子レンジで使える？	漆器の多くは向きません。取りあつかい方を確認しましょう。
肌がかぶれることがあるの？	塗り終えて乾いた漆器は、ふつうにさわっても問題ないとされています。
高いのはなぜ？	工程の多さや手間、使われている技術によって値段が変わります。

ポイント

- 疑問に思ったら、お店の人や職人さんに聞いてみるのもよい方法です。

やってみよう

- 自分が漆器について疑問に思うことを1つ書こう。

書いて覚えよう

マナーと注意点

漆器をあつかうときのマナーを知ろう。

ポイント

- 両手でそっと持ち、落とさないように気をつけましょう。
- かたい金属のスプーンやたわしでこすると、表面がきずつくことがあります。
- 生の漆にじかにふれることは、かぶれの原因になるためさけましょう。

こんなときは

美術館などで展示品を見るときは、さわらずに目で楽しみましょう。

やってみよう

1. 家で漆器や大切な器を使うとき、気をつけていることを書こう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材に出てきた言葉を確認しよう。

漆器の基本

☐ 漆

ウルシの木からとれる天然の塗料

☐ 漆器

漆を塗り重ねた器

☐ 下地

土台をつくる工程

加飾の技法

☐ 蒔絵

金銀の粉で模様をえがく

☐ 螺鈿

貝がらをうめこむ

☐ 沈金

ほった溝に金をうめる

産地の名前

☐ 輪島塗

石川県の丈夫な漆器

☐ 会津塗

福島県の身近な漆器

☐ 津軽塗

青森県の研ぎ出し模様

漆にかかわる人

☐ 漆かき

漆の木から樹液をとる仕事

☐ 塗師（ぬし）

漆を塗る職人

☐ 木地師（きじし）

木の形をつくる職人

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。知っている言葉が増えると、漆器を見る目も変わります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 産地と特徴を線でむすぼう

- | | | |
|-----|---|--------------------|
| 輪島塗 | ● | ● ア. 貝がらをうめこむ技法 |
| 会津塗 | ● | ● イ. 研ぎ出しの独特な模様 |
| 津軽塗 | ● | ● ウ. 金銀の粉で模様をえがく |
| 蒔絵 | ● | ● エ. 丈夫な下地とはなやかな加飾 |
| 螺鈿 | ● | ● オ. 種類が豊富で身近 |

2. 漆器の材料と、土台をつくる工程をそれぞれ書こう

1. _____
2. _____

3. 金銀の粉をまく技法と、貝がらをうめこむ技法をそれぞれ書こう

1. _____
2. _____

書いて覚えよう

家族や友だちに話してみよう

学んだことを、身近な人に伝えてみよう。

紹介する産地

特徴

おすすめポイント

聞いてほしい人

Emma の例

紹介する産地 津軽塗／特徴 研ぎ出しの模様が一つひとつちがう／おすすめポイント 色の組み合わせがきれい／聞いてほしい人 クラスの友だち

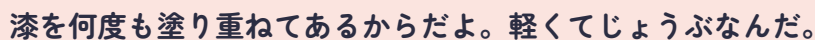
ポイント

- 言葉で説明すると、自分の理解も深まります。

書いて覚えよう

これは日本の漆器です。

天然の漆でぬり重ねられています。



1. 自分の好きな漆器を、英語で1文紹介してみよう。

27

もっと知りたい人へ

漆器の世界を、もっと広げていこう。

もっと知りたい人へ

美術館で

地域の漆器美術館を訪ねる

体験で

蒔絵体験教室に参加する

本で

産地ごとの図鑑を読む

次に学べること

陶磁器

土や石から生まれるうつわ

染め物・織物

布をいろどる技術

木工・竹細工

木や竹でつくる道具

ポイント

- この教材の後には「染め物・織物」。あわせて学べると、日本の工芸の広がりがよく分かります。

書いて覚えよう

漆器チャレンジ

教室の外でも、漆器はすぐに楽しめます。

さがそう

家の中にある**漆器**や似た器を見つける

くらべよう

蒔絵と**螺鈿**のちがいをさがす

伝えよう

好きな漆器を**家族**に紹介する

こたえ

L28 輪島塗→エ 会津塗→オ 津軽塗→イ 蒔絵→ウ 螺鈿→ア 2. 漆
／ 下地 3. 蒔絵 ／ 螺鈿

L33 (例) 漆器は、木などの器に漆を塗り重ねてつくる道具のこと。

書いて覚えよう

漆器 (Season 5 | No.42)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。